

 書評

融 道男, 岩脇 淳, 渡邊昭彦 監訳

カプラン臨床精神医学 Q & A レビュー

小島卓也

この本は「Kaplan & Sadock's Study Guide and Self-Examination Review in Psychiatry」の改訂第 8 版を翻訳したものである。カプランの教科書には、大部で詳細な「Comprehensive Textbook of Psychiatry」と、簡略にして使いやすく翻訳もある「カプラン臨床精神医学テキスト」があり広く利用されているが、この本はカプラン精神医学の一連の機能を「知識の整理と活用」という面から補完するものといえる。精神医学を勉強した後に、知識を整理して自由に活用できるような状態に引き上げ、維持していくために工夫された本である。対象者は医学生、精神科医、精神保健の専門家であるが、特に米国医師国家試験 (United State Medical Licensing Examination ; USMLE) と米国精神科神経内科専門医試験 (American Board of Psychiatry and Neurology ; ABPN) を準備している人々に役立つように計画されている。したがって、レベルとしてはかなり高い水準となっている。

本書の構成は全部で 61 項目に分かれている。各項目は、最初に項目の説明が簡潔に示され、次に「理解しておくべきキーワード」として、項目ごとに 40～150 個程度のキーワード (専門用語) が並んでいる。日本ではあまりなじみのない専門用語もあるが、これらを全部説明できるように理解しておけば相当の知識が維持される。ABPN ではこのような幅の広い知識が要求されていることを考えると、日本の精神科専門医制度の向かうべきレベルの参考にもなるであろう。その後、5 つの問題から 1 つを選ぶ日本の国家試験形式の問題が列挙されてい

る。精神障害の病因、診断、治療に関する問題が、本書の全体では 1,500 題用意され、その後に解答と詳しい解説がついている。また、解説には簡潔にまとめた表や図が多数挿入されており、知識の整理に役立つように配慮されている。

国際診断基準が導入されて以来、臨床場面においては病因に関する関心が薄れ、症状把握と診断・治療が中心になっているが、病因に関する問題が多数含まれていて、最新で精度の高い知識・情報を得ることができて興味深い。

61 項目の表題をみると、「幼児期、児童期、および青年期の不安障害」「児童と青年の気分障害と自殺」「虐待または無視に関連する問題」など、幼児・児童・青年期に関する項目が 20 (全体の 32.7%) もあることに驚く。米国では児童・青年期のさまざまな問題が社会的に取り上げられており、成人の精神障害の基盤としても重視されているためと考えられる。知識の整理という意味で、全項目のうちの興味のある項目について試してみるのもよいであろう。

問題を作成する立場の精神科医にとっても、自分が日常作成している問題の位置づけや問題作成のヒントを与えてくれるであろう。また、索引も充実しているので、辞書のように利用することもできる。いろいろな使用方法があるユニークな本といえる。

(大宮厚生病院)

●B5 変型判 624 頁 2009 定価 8,400 円(本体 8,000 円+税) MEDSi